

令和6年度 『社会福祉法人昂会』事業報告

1. 令和6年度の取組み課題からの振り返り

取組課題	取組み状況
経営に対する基本姿勢 ①経営のリーダーシップ ②健全で安定的な財務基盤の確立	昨年度は、一昨年度まで続いていた赤字経営からの脱却を目指し、収支の改善に取り組んだ結果、一定の成果を得ることができました。今年度も引き続き、収益確保のために利用率の向上や加算の取得に向けた具体的な取組みを進めております。また、報酬改定や処遇改善加算の一本化を踏まえた要件整備を行ったことにより、サービス活動収益および就労支援事業収益ともに増収となりました。 支出面では、物価高騰に対応するための費用見直しや人件費の適正化などに取り組んでおります。しかしながら、日本知的障害者福祉協会、全国社会就労センター協議会、全国身体障害者施設協議会、全国社会福祉法人経営者協議会の4団体が共同で実施した全国調査（1,453事業所回答）でも明らかになっているように、光熱水費や燃料費等の支出は年々増加しています。 具体的には、1事業所あたりの平均として、前々年度比で光熱水費・燃料費が158%（月額約54万円増）、電気代は2倍（月額約37万円増）、給食材料費も130%（月額約33万円増）と、全国的にも負担が増加しており、当法人も同様の傾向にあります。 来年度以降も、自主的な経営基盤の強化を基本方針とし、運転資金の安定確保と高額設備の導入に向けた資金調達の両立を図ること、また職員が安心して働き続けられる待遇整備など、諸課題に対応しつつ、健全な経営を目指してまいります。 また、医療法人社団慧正会の奥川氏より、三方原事業所不動産の贈与を受け、当法人の事業活動の拠点として、また地域社会の福祉拠点として活用させていただくことになりました。当法人としては、その寄贈の精神を大切に継承し「生き生きとした暮らしの実現」に役立てていくことが、その期待に応えることだと認識しております。 また昨年度、コンサルタントのサポートを受けながら、「理念、使命、未来、価値」の策定を行いました。このプロセスでは、法人が目指すべき姿を深く掘り下げ、組織全体の方向性を共有することを目的として、関係者全員の意見を取り入れた議論を重ねました。その結果、法人が将来的にどのような役割を果たすべきか、またそのためにどのような価値を提供していくべきかについて、明確な指針が得られました。 今後は、これらの理念や使命を内外に向けて広く発信し、全職員及び関係者の間で定着させることを第一の目標として掲げています。具体的には、定期的な研修や発信ツールを活用して、全員が共有し実践できるような取組みを進めてまいります。 なお、現時点で経営の指針となる「経営計画」や「中期事業計画」の策定が未整備となっておりますので、これらの整備にも着手してまいります。

支援に対する基本姿勢 ①人権の尊重 ②包括的支援の充実・展開 ③サービスの質の向上 ④安心・安全の環境整備	サービスの質の確保及び向上を目指し、さまざまな取り組みを実施しています。具体的には、法人全体で虐待防止・権利擁護研修やハラスメント研修を実施するとともに、事業所単位で年間3回以上の内部研修を行いました。また、職員には外部研修への参加を積極的に推奨し、県主催の虐待防止・権利擁護研修や相談支援専門員研修、テーマ別研修等にも参加しました。 しかしながら、昨年度に続き今年度も1件の虐待事案が発生し、その対応として特別監査が実施されました。監査結果をもとに改善措置を講じ、再発防止に向けた取り組みを進めております。虐待事案の発生原因としては、支援困難な事例、支援者の倫理観や支援力量の課題、また支援現場の負担（働き方やストレス）などが挙げられます。これらの課題に対しては、面談や改善策を実施・計画しており、引き続き職員や職場、支援の状況を把握し、第三者の意見も取り入れながら改善を進めていきます。 BCP（事業継続計画）と感染対策の強化として、BCP 防災委員会及び感染対策委員会の開催は義務化されており、これに基づき、会議や研修・訓練を実施しました。今年度は、長期間にわたる大雨警報により、避難生活や施設の開所不可の状況が続きました。また、感染症においては、7月と1月に施設内でクラスターが発生しました。これに対する迅速な対応を進めるとともに、職員の訓練の時間を確保するのが困難な状況もありましたが、今後も引き続き利用者の安全環境の整備と職員の非常時対応能力の向上に努めてまいります。
地域に対する基本姿勢 ①地域共生社会の推進 ②信頼と協力を得るための積極的な発信	本年度も各事業所において、地域との連携や貢献を目的とした公益的な取組を継続して実施いたしました。 大山ファームでは、地域交流スペースの貸し出しを行うとともに、地元の「河津桜まつり」に出店するなど、地域との交流促進に努めました。 グループホーム（GH）では、大山町北川沿いの道路において除草作業を実施し、地域の環境美化に貢献いたしました。 あすなろ作業所では、有志によるフラダンスサークルの活動や、開設40周年記念行事の開催を通じ、地域住民との交流を深めました。 四季の郷では、実習生の受け入れや地域交流イベントの開催を行い、福祉に対する理解促進に寄与しました。 アグリッシュ西丘でも、地域交流行事を実施し、地域とのつながりを強化しました。 すばるにおいても、ソーシャルワーク実習生の受け入れなどを通じた地域貢献活動を実施しております。 また、これらの活動については、リニューアルしたホームページを通じて積極的に情報発信を行い、より多くの方々に当法人の取組を知っていただけるよう努めました。その結果、年々地域からの反響も大きくなっており、地域共生や福祉への理解が着実に広がっていることを実感しております。 今後も、より積極的な発信と活動の充実を図りながら、「地域における公益的な取組と推進」という責務を果たしてまいります。

福祉人材に対する基本姿勢 ①中長期的な人材戦略の構築 ②人材採用に向けた取り組み強化 ③人材の定着に向けた取り組み強化 ④人材育成に向けた取り組み強化	当法人は、急速に進行する現役世代の減少（いわゆる 2040 問題）を見据え、今後の人材確保、定着、育成、活躍、そして多様な働き方の促進に向けた取り組みを強化してまいりました。 福利厚生の実現に向けた取り組みとして、昨年度に引き続き、当法人は職員の健康増進に注力し、「健康経営優良法人 2024」を取得しました。この取得は、経営的視点から職員の健康管理を事業所全体で推進している成果であり、福利厚生の充実を図る重要なステップとなっています。さらに、職員が安心して働き続けるための職場環境の整備においては、「福祉はぐくみ企業年金基金」を導入し、その定着が進みました。2024 年 3 月末時点で、51.4%の職員が加入しており、今後も働きやすい職場づくりを目指していきます。 人材育成・評価制度の改善として、一昨年度は、体系的な研修プログラムや新職員向けの導入研修の統一化、キャリアパスの明確化、人事考課の研究、さらにはリーダー層の育成への取り組みを行いました。職員の確保に迫られ、実施が中途半端な状態となりました。これを受けて、2024 年 3 月に実施した組織風土アンケートの結果から、特に「人事・キャリアアップ、処遇面、理念・方針」に関する課題が浮き彫りとなり、法人としての改善が求められていることが明確となりました。 これに対応するため、今年度はコンサルタントのサポートを受けながら、法人の理念やビジョン、行動指針を再策定し、キャリア形成と人事考課を連動させた仕組みの整備を進めました。新たに策定した「活躍支援制度（評価制度）」により、職員の目指す姿や評価基準が明確化され、意欲的な働き方や育成の基盤が整いました。 今後の展望としては、これらの取り組みを広く発信することで、人材採用にもつなげていきたいと考えています。来年度においては、まず運用方法の確認や職員への浸透を目標に進め、より一層の改善を図る予定です。

2. 法人全体研修

月日	研修	内容	対象
3 月	ハラスメント オンライン研修	管理者・サビ管向け研修	管理者向け
		労働者向け研修	従事者向け
11～2 月	虐待防止・権利 擁護研修	虐待防止法の理解と不適切言動の点検	事業所毎に実施 職員全員

3. 各事業の利用実績

施設・事業名		年間 開所日数	利用者延べ 人数	1日平均 利用者数	事業 定員	備 考
四季の郷	施設入所支援	365 日	16,989 人	46.6 人	50 人	
	生活介護	269 日	12,247 人	45.6 人	49 人	
	短期入所	365 日	403 人	1.1 人	10 人	
第一・第二・第三大山荘	共同生活援助	365 日	5,236 人	14.3 人	17 人	
	短期入所	183 日	175 人	0.5 人	1 人	
細江あすなろ作業所	生活介護	262 日	4,598 人	17.5 人	20 人	
大山ファーム	就労継続支援B型	265 日	5,423 人	20.5 人	20 人	
アグリッシュ西丘	生活介護	262 日	3,425 人	13.0 人	12 人	
	就労継続支援B型	262 日	5,914 人	22.6 人	24 人	
事業所合計			54,410 人	(4年度) 55,199 人		昨年度-789 人

4. 法人評議員会の開催

第1回 令和6年6月26日(水) 13:00～15:50 於、四季の郷作業棟

(欠席者) 1名

- (議案) 第1号議案 令和5年度事業報告の件
 第2号議案 令和5年度計算書類・財産目録の承認の件
 第3号議案 監事監査実施報告の件
 第4号議案 医療法人社団慧正会(ケイセイカイ)からの不動産
 (土地・建物)の無償譲渡申し出の件
 第5号議案 無償譲渡の不動産を活用した事業展開計画案の審議の件
 ※報告事項

第2回 令和6年10月17日(木) 13:00～14:30

於、細江あすなろ作業所 三方原事業所予定地

(欠席者) 2名

- (議案) 第1号議案 細江あすなろ作業所事業展開用不動産の所有権移転登記完了の件
 第2号議案 社会福祉法人品会 定款改定(案)の件
 第3号議案 社会福祉法人品会 評議員・役員報酬規程の改定に向けた審議の件

5. 法人理事会の開催

第1回 令和6年5月28日(火) ※決議があったものとみなされた日(省略決議)

(議案) 第1号議案 融資(短期資金)申込案の件

第2回 令和6年6月10日(月) 14:00～16:45 於、四季の郷作業棟

(欠席者) 3名

- (議案) 第1号議案 令和5年度事業報告(案)の承認の件
 第2号議案 令和5年度収支決算(案)の承認の件
 第3号議案 監事監査実施結果の認定の件
 第4号議案 令和6年度第1回定時評議員会の招集及び議案の件
 第5号議案 公用車のリース活用の件

- 第6号議案 人事評価制度等の構築支援に関する契約の件
- 第7号議案 細江あすなろ作業所事業展開計画（案）の承認の件
- 第8号議案 規程・規則の改定の件
- ※報告事項

第3回 令和6年9月24日（火）14:00～16:30 於、四季の郷作業棟

（欠席者）3名

- （議案）第1号議案 人事評価制度等の構築支援に関する中間報告（案）の件
- 第2号議案 令和6年度第1次補正予算（案）の件
- 第3号議案 細江あすなろ作業所事業展開用不動産の所有権移転登記完了の件
- 第4号議案 社会福祉法人品会 定款改定（案）の件
- 第5号議案 規程の改定（案）の件
- 第6号議案 社会福祉法人品会 評議員・役員報酬規程の改定に向けた審議の件
- ※報告事項

第4回 令和7年1月31日（金）15:00～16:20

於、細江あすなろ作業所 三方原事業所予定地

（欠席者）3名

- （議案）第1号議案 職員活躍支援制度（案）の件
- 第2号議案 社会福祉法人品会 評議員・役員報酬規程（案）の件
- ※報告事項

第5回 令和7年3月31日（月）13:00～16:00 於、四季の郷作業棟

（欠席者）2名

- （議案）第1号議案 令和6年度第2次補正予算（案）の件
- 第2号議案 令和7年度収支予算（案）の件
- 第3号議案 令和7年度事業計画（案）の件
- 第4号議案 社会福祉法人品会 評議員・役員報酬規程（案）の件
- 第5号議案 諸規定の策定（案）及び一部改定（案）の件
- 第6号議案 監事候補者1名の選任の件
- 第7号議案 選任・解任委員1名の選任の件
- 第8号議案 令和7年度第1回臨時評議員会の招集の件
- 第9号議案 役員賠償保険の更新の件
- 第10号議案 就労継続支援B型（大山ファーム）の設備等整備積立金の承認の件
- ※報告事項

6. 法人監事による内部監査の実施

令和7年5月27日（火）、5月30日（金）、早戸真規理事、新村事務局長が同席し、稲垣賢一監事、落合克能監事による令和6年度決算監査を実施した。

7. 借入金の償還

- ①「大山ファーム」建設資金として独立行政法人福祉・医療機構よりの借入金について、令和6年度は以下のように償還を行った。

＜大山ファーム＞		令和7年12月まで	
	令和6年4月	元金	298,000円
	元金合計(×12)		3,576,000円 ①
	令和5年4月～6年3月		利子 12,464円 ②
	合 計 (①+②)		3,588,464円

- ②経営の安定化資金として浜松磐田信用金庫よりの借入金(10,000,000円)について、令和6年度は以下のように償還を行った。

＜法人本部＞		令和5年11月～令和8年10月まで	
	令和6年4月	元金	277,000円
	元金合計(×12)		3,324,000円 ①
	令和6年4月～7年3月		利子 202,797円 ②
	合 計 (①+②)		3,526,797円

**私たちの理念
Purpose**

生き生きとした暮らしの実現

**私たちの使命
Mission**

私らしさが花ひらく共生社会を創り出します

**私たちの未来
Vision**

障がいのある人もない人も、誰もが主役として
輝く居場所や、人とのつながりを作ります

**私たちの価値
Value**

親身になって考えます
 最善を尽くして行動します
 振り返りの習慣を大切にし、未来に向けて挑戦します。
 人との助け合いを大切にします。
 個性や多様性を尊重しお互いの持ち味を生かします。

社会福祉法人職員として

福祉専門職として

行動指針

項目	詳細
親身になって考えます	親身になって考える
	建設的で誠実な対話
最善を尽くして 行動します	前向きな姿勢
	継続的な学習
振り返りの習慣を大切にし、 未来に向けて挑戦します	継続的な改善
	チャレンジ精神
人との助け合いを 大切にします	チームプレイの重視
	互いへの感謝
個性や多様性を尊重し お互いの持ち味を 生かします	多様性の尊重
	持ち味の発揮

倫理要綱

前文

障がいのある人たちが、人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を自己実現できるように支援することが、私たちの責務です。そのため、私たちは支援者のひとりとして、確固たる倫理観をもって、その専門的役割を自覚し、自らの使命を果たさなければなりません。ここに倫理綱領を定め、私たちの規範とします。

1. 生命の尊厳

私たちは、障がいのある人たちの一人ひとりを、かけがえのない存在として大切にします。

2. 個人の尊厳

私たちは、障がいのある人たちの、ひとりの人間としての個性、主体性、可能性を尊びます。

3. 人権の擁護

私たちは、障がいのある人たちに対する、いかなる差別、虐待、人権侵害も許さず、人としての権利を擁護します。

4. 社会への参加

私たちは、障がいのある人たちが、年齢、障がいの状態等にかかわらず、社会を構成する一員としての市民生活が送れるよう支援します。

5. 専門的な支援

私たちは、自らの専門的役割と使命を自覚し、絶えず研鑽を重ね、障がいのある人たちの一人ひとりが豊かな生活を実感し、充実した人生が送れるよう支援し続けます。

(財団法人 日本知的障害者福祉協会の倫理綱領を参考)

8. 各施設・事業所の事業報告

四季の郷

1. 四季の郷の支援目標

今年度も『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

2. 利用者の状況

年度途中に認知症対応型 GH に移行した利用者 1 名、特別養護老人ホームに移行した利用者 1 名の計 2 名の退所者があった。入所者は男性 1 名・女性 1 名の計 2 名であった。引き続き男性の比率が高い傾向にある。平均年齢は少し下がった。また、平均障害支援区分については、前年度と同じ状況であった。

利用者の年齢構成 (単位: 名/施設入所支援利用者 47 名中・R6.3.31 現在)

	18 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	計
男 性	2	1	8	13	2	2	28
女 性	4	1	2	4	5	3	19
最高齢 87 歳・最若齢 18 歳/平均年齢 51.3 歳							

利用者の障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男 性				4	9	15	28
女 性				3	8	8	19
平均障害支援区分 5.3							

3. 具体的な取り組み

(1) 支援体制

●生活支援体制

今年度も引き続き、支援体制を生活支援部/日中活動支援部の 2 部門に分け、それぞれリーダーを立てることで、きめ細やかな支援体制を実現してきた。

また、重点支援目標として『虐待防止・権利擁護』『日中活動支援の検討』『研修体系の見直し』を掲げ、身体拘束の適正化、利用者の意思決定支援や外部活動資源の活用、法人研修との連携強化を、委員会活動や各会議の場を通して実施してきた。

●会議

A. 職員全体会議

今年度は 4 月に 1 回開催した。全職員が出席する形で、事務や医務、栄養、支援の各部署からの連絡事項と共に、施設全般の方向性の確認、事業計画及び支援体制の確認、感染症対策の確認等を行った。

B. 生活支援会議、男女別モニタリング会議

男女別に月例で開催し、利用者個々の生活課題や支援目標についての情報共有や事例検討を行ってきた。また、モニタリング会議では、昨年度に引き続き『5 ピクチャーズ』を活用し、ニーズの掘り下げ/利用者理解を深める取り組みを行った。毎回、会議資料を工夫して、伝わりやすく共有しやすい会議の実施に努めてきた。

C. 給食会議

毎月 1 回開催した。施設長・事務局長・サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席した。食事の設備・内容、感染症対策、利用者への対応等に関する調整を行った。

D. リーダー会議

毎月1回開催した。施設長・サービス管理責任者・各リーダーが出席した。支援全般に関する調整の他、その時々で課題に挙がっていたケース事例について検討を行い、支援の方向性を確認した。今年度は虐待防止に関する議案・取り組みを重点的に実施してきた。

E. ケース検討会議

特定の利用者への支援や事故等の状況を鑑み、緊急的な支援調整や検討・障がい理解を深めることを目的として、必要に応じて実施してきた。

F. 日中活動支援会議

隔月で実施した。サービス管理責任者・日中活動リーダー・支援員が出席した。日中活動（課業・余暇・行事）に関する実施状況の把握、課題等の具体的な検討・調整を行った。

●委員会

A. QOL向上委員会

サービス管理責任者・リーダー職員・支援員が出席し、隔月で実施してきた。

利用者の『生活の質』を高める取り組みとして上映会や外部業者による出張販売会の開催、意見箱の設置やミニスポーツ大会等を実施した。

B. 身体拘束適正化委員会

サービス管理責任者・リーダー職員・支援員が出席し、隔月で実施してきた。

身体拘束モニタリングや不適切ケアに関する意見交換を実施し、検討内容の周知/支援環境の調整を実施してきた。また、行動障害に起因する行動制限については、『安全確保のための行動制限ガイドライン』に則り適切に対応（支援）しているか随時チェックを行い、支援環境の調整に努めてきた。

C. 危機管理委員会

サービス管理責任者・リーダー職員・支援員が出席し、月例で実施してきた。

委員会では、前月の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析を行うと共に再発防止策の検討を行い、誤薬事故を予防する為の取り組み等を実施してきた。また、必要な場合にはリーダー会議や生活支援会議と連携を取り、再発防止策の具体的な検討や周知を行ってきた。

D. 意思決定支援委員会

サービス管理責任者・リーダー職員・支援員が出席し、月例で実施してきた。

委員会では、利用者の意思決定支援の一環として、利用者自治会活動の運営支援を行ってきた。年度当初に利用者によって選出された会長を中心に役員その他参加希望者によって自治会の取り組みを行い、主に日常生活や行事場面など様々な事柄について利用者の選択の機会（『変わり湯』『行事のメニュー』など）/意思決定に関わる取り組みを実施してきた。

また、個別外出や作業収益金の使用用途などの意思確認を、利用者への聞き取りや保護者面談等の機会を通して実施してきた。

E. 環境整備/食の安全委員会

サービス管理責任者・リーダー職員・支援員が出席し、月例で実施してきた。

年度当初に立案した『施設環境整備計画』に沿って、館内各箇所の清掃・設備の点検補修・居室環境の整備などを実施してきた。月例で意見交換を行うことで、施設環境に関する情報共有やきめ細やかな対応につなげることが出来た。また、食事支援における現場でのリスクについて情報を共有し、対策を講じる活動を行ってきた。

(2) 日中活動の支援

今年度は、利用者の障害の重度化/高齢化、限られた人員での活動機会と質の確保という課題へのアプローチとして、次年度に向けた課題の整理や課業グループの再編（微調整）を行いつつ、安定した活動機会の提供を継続してきた。また、レクリエーション活動や行事を通して、外部資源の活用を図ってきた。

A. 平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

障がいの重度化・高齢化の影響によって、より生活日課（＝日中入浴、個別支援や生活場面の介護）に比重が置かれる中、安定して実施できている活動がある一方で、活動回数が限定的である活動があった。また、希望者にはあんま師による関節可動域維持のための施術（訪問マッサージ）を実施した。

● 作業系活動

・ペットボトルキャップ仕分け作業 ・リサイクル作業

● 歩行系活動

・施設外周歩行 ・公園散歩（ドライブ散歩） ・個別歩行

● リハビリ系

・個別リハビリ活動 ・憩い棟活動 ・訪問マッサージ

B. 休日等のクラブ活動支援

今年度も、余暇活動として以下のクラブ活動を実施した。

● 音楽クラブ

カラオケやリトミック、季節に合った歌を歌ったりしてきた。

月に1～2回、外部講師を招き、リズム体操や楽器を使ったレクリエーションを、楽しい雰囲気の中で実施することが出来た。また、みらと（静岡県障害者文化芸術活動支援センター）と協同でイベントを行った際には、即興演奏家の演奏や珍しい楽器に触れて遊ぶなど、自由な雰囲気の中で音楽を楽しむ機会となった。

● 絵画クラブ

外部講師を招き、オリジナルTシャツの作成や窓ガラスアート、段ボール工作など、毎回テーマを決めて楽しい雰囲気の中で実施することが出来た。

● 元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。

(3) 行事活動の支援

今年度も、ねらい別に全体行事、K（個別）活動、誕生会・季節行事、おやつの日行事に分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

A. 全体行事

● 夏祭り・・・7月19日（金）

各棟に分かれてのゲームや盆踊りを通して夏祭りを楽しむことが出来た。暑さ対策を講じ、利用者の健康面に配慮して実施した。

● 秋祭り・・・10月25日（金）

今年度の秋祭りは、保護者の方々をお招きし『運動会』をテーマとして開催した。フライングディスク、リレー等の各種目を午前/午後の2部に分けて実施した。利用者・保護者・職員全員が参加し、賑やかな一体感のある楽しい交流のひと時になった。

● クリスマス会・・・12月20日（金）

利用者・職員のみで楽しむアットホームなパーティーと位置づけ、クリスマスにちなんだレクリエーションやランチ、恒例のサンタクロースからのプレゼントタイムなど、1日を通して楽しい時間を提供することができた。

B. 地域交流イベント・・・6月15日（土）

障害への理解、障害者を支える仕事の情報発信、地域との交流を目的として、主に法人関係者や障害福祉当事者/関係者等の参加があり、楽しい雰囲気の中で実施することが出来た。一方で、地域住民の参加がなく、コロナ期間中に薄れた地域との繋がりについて課題が感じられた。

C. 誕生会・季節行事

今年度も、生活の“めりはり”に季節感を取り入れていきたいという理由から、お花見や七夕、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施した。また、新年会では、各棟でレクリエーション『願掛け餅つき』を行い、利用者の自発的な参加もあり、大いに盛り上がった。

D. その他の行事

外部団体主催の映画会やミュージカル、作品展やスポーツ大会等のイベントへの参加は感染症予防や人員配置の難しさがあり見合わせた。外部資源の導入、活用を図ってきた。

（4）健康を維持するための支援

● 医療管理

今年度も、支援員や栄養士との連携を図り、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してきた。また、年2回の一斉健康診断や歯科受診（年度内に1回/人）で発見された糖尿病や高血圧、心疾患、虫歯、歯槽膿漏等の病気・症状に対しては早めの通院を心がけ、地域のかかりつけ医と連携しながら検査・治療を行ってきた。症状によっては紹介にて病院へつなげていただいたり、緊急を要する場合には救急外来を受診して対応を行った。

今年度も引き続き、利用者・職員による感染症の集団発生が生じないように、また、感染の早期発見ができるように、検温をはじめ利用者の体調面の観察等を強化するとともに、館内消毒の時間を設定するなど、全職員で感染予防対策に努めてきた。今年度は、7月にコロナ、1月にはインフルエンザ/感染性胃腸炎のクラスターがあり、多くの利用者/職員が罹患する事態（延べ人数…100名/年）となった。施設そのものの構造や重度の知的障害者を24時間365日、生活を支える機能を発揮することの難しさを痛感した一年となった。次年度は、法人感染対策委員会の方針に基づき、事業所単位での感染症対策をより進めていきたい。

● 栄養管理

健康管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行ってきた。

特別食の内容はダイエット食・嚥下食等があり、その他糖尿対応のカロリー指定、食欲不振や偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫、栄養強化の必要がある利用者には栄養補助食品を使用してきた。年々、高齢化により嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供が必要になってきている。また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけではなく多職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行ってきた。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心がけている。献立作成に当たっては、旬の食材を取り入れ、利用者の要望を取り入れた季節感のある行事食やご当地メニューなどの工夫を行った。

震災時への対応としては、6日分の非常食と飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄して

いる。施設利用者にとっては、食事は一日の楽しみの大きな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理・感染予防をしっかりと行い、利用者に喜んでもらえるような食事を提供していきたい。

※食事提供の状況（2025..3 現在）

盛り付け量	主 食	カロリー	男	女	合計
小	100 g	1500 kcal	6	11	17
中	160 g	1800 kcal	2	4	6
大	200 g	2100 kcal	9	3	12
特大	280 g	2400 kcal	10	1	11
合計			27	19	46

種 類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	1	1	2
	こんにゃくライス	0	2	2
	低脂肪牛乳	0	0	0
	糖尿食	0	0	0
	心臓病対応食（塩分制限）	0	0	0
	嚥下ミキサー食	0	0	0
栄養補助食品	極刻み食	5	6	11
	微量栄養素補助食品	1	1	2
	栄養強化食品	9	1	10

（５）防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。各訓練の実施後には、参加者にチェックシートの記入をしてもらい、訓練ごとに振り返りを行ってきた。

実施月日	訓 練 実 施 内 容
4 月 8 日	夜間火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練。
5 月 8 日	防災倉庫の点検、整理。
6 月 5 日	英メنزを使用しての地震避難シミュレーション訓練。テント設営。
未実施	コロナクラスター発生の為、中止。
8 月 20 日	平日日中火災を想定しての避難訓練
9 月 9 日	安否コールを使用した安否情報送受信訓練
10 月 7 日	非常食の炊き出し、実食訓練
11 月 6 日	平日日中の大規模地震を想定しての被災対応訓練「社会福祉施設防災の日」
12 月 31 日	平日日中火災を想定しての避難訓練（抜き打ち）
1 月 13 日	夜間帯の火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練
未実施	防災講習会【テーマ：被災地支援】を予定…講師の体調不良により延期
3 月 12 日	平日日中の火災を想定しての避難訓練（抜き打ち）

（６）家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるよう努める

① 四季の郷家族会との親睦・関わり

今年度は、主に行事案内やボランティア（環境清掃/裁縫/行事）の募集を通して親睦の機会としてきた。保護者の関心あるテーマでの勉強会（＝成年後見制度等）を設けていくなど、活動の幅を広げていくことが課題となっている。

② 行事ボランティアの募集・受け入れ

今年度は、学生ボラや保護者を対象として、大行事を中心にボランティアの募集・受け入れを行ってきた。

③ 実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生（保育／歯科衛生士実習…四季の郷）の受け入れを行ってきた。

※実習生受け入れ実績（令和6年4月～令和7年3月／実習生受け入れ順）

所属等	目 的	実 習 期 間	実習日数	受入人数
東海歯科衛生士専門学校	現場体験	6月4日～7月31日	10日間	11名
浜松学院大学短期大学部	保育実習	7月1日～7月27日	12日間	2名
実習受け入れのべ日数			22日間	
実習受け入れのべ人数			13名	

（7）短期入所

コロナ禍が明けたことによる安定的な受け入れの再開、新規利用者の受け入れにより、受け入れ実績の増加（平均1.3人/日の利用）につながった。昨年度より、定期的に利用する利用者が複数名いた事も安定的な利用状況に繋がった一因として考えている。今年度の新規利用者は4名であった。新規にオープンしたGHで短期入所を併設している事業所が増えたことで、身近に利用できる選択肢が広がりつつある状況にあり、継続して選ばれる為の受け入れ体制づくりが大切となっている。

（8）日中一時事業

今年度の受け入れについても、浜松市と委託契約を結び事業を行ってきた。浜松市は、中央区からの利用が見られた。

（9）職員のスキルアップに努める

① 職員研修の実施

●園内研修

日 付	研 修 内 容	参加者
5月27日	「リスクマネジメント」（支援員） ※リスクマネジメントの考え方、応急処置や救急搬送に関する実技訓練を実施。内部講師：サビ管	5名
6月13日 6月18日	「自閉症・強度行動障害における支援のあり方」（支援員） ※午前：法人他事業所の施設見学、支援状況の情報共有、 午後：内部講師（サビ管）による講義、演習と意見交換を実施	7名
9月～10月	「5ピクチャーズを活用してのニーズ把握」（支援員） ※モニタリングに合わせて、サビ管・各ケース担当により実施。ニーズ把握、利用者（障害）理解。	20名
10月8日	「リスクマネジメント」（支援員） ※リスクマネジメントの考え方、応急処置や救急搬送に関する実技訓練を実施。内部講師：サビ管	3名
11月11日	「感染症予防に関する基礎知識」 ※感染対策DVD鑑賞、内部講師（サビ管）による講義、嘔吐物処理の実践訓練を実施	4名
11月27日	「自閉症・強度行動障害における支援のあり方」（支援員） ※午前：法人他事業所の施設見学、支援状況の情報共有、	3名

	午後：内部講師（サビ管）による講義、演習と意見交換を実施	
3月～4月	「5ピクチャーズを活用してのニーズ把握」（支援員） ※モニタリングに合わせて、サビ管・各ケース担当により実施。ニーズ把握、利用者（障害）理解。	16名

●『e-ラーニング』を活用しての自己学習（通年）

- ・共通（必須）受講内容…虐待防止、感染症予防
- ・選択学習受講内容…階層別、各専門コンテンツから受講

●外部研修

日付	研修内容	参加者
6月20日 6月25日	令和6年度静岡県相談支援従事者初任者研修(オンデマンド、オンライン研修)	1名
9月26日	行動障害支援に役立つ「基本のコツ」講座	1名
11月20日	静岡県知的障害者福祉協会栄養部会研究集会	1名
11月28日	令和6年度福祉サービス苦情解決研修会	1名
10月23日 1月7日・8日	令和6年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 初任者コース（西部）（※計3日間）	1名
8月26・27日 9月5日・9日	令和6年度静岡県サービス管理責任者等基礎研修(オンデマンド)	1名
10月1日・2日	令和6年度サービス管理責任者等基礎研修（集合研修）	1名

第一・第二・第三大山荘

1. 入居者の状況（令和7年3月31日現在）

第一大山荘

	氏 名	性別	年齢	入居年	日 中 活 動 先
1	A様	男	68	平成14年 2月	アグリッシュ西丘（就労継続B型）
2	B様	男	75	平成14年 2月	令和6年9月12日 ※退所
3	C様	女	68	平成22年 7月	アグリッシュ西丘（就労継続B型）
4	D様	女	64	平成31年 4月	令和6年12月12日 ※退所
5					

第二大山荘

	氏 名	性別	年齢	入居年	日 中 活 動 先
1	A様	男	77	平成21年 9月	引佐草の根作業所（就労継続B型）
2	B様	男	73	平成21年 9月	細江あすなろ作業所（生活介護）
3	C様	男	61	平成21年 9月	細江あすなろ作業所（生活介護）
4	D様	男	59	平成21年 9月	大山ファーム（就労継続B型）
5	E様	男	47	令和6年 5月	アグリッシュ西丘（生活介護）
6	F様	男	77	平成24年 3月	アグリッシュ西丘（生活介護）

第三大山荘

	氏 名	性別	年齢	入居年	日 中 活 動 先
1	G様	女	79	平成21年 9月	アグリッシュ西丘（就労継続B型）
2	H様	女	59	平成21年 9月	細江あすなろ作業所（生活介護）
3	I様	女	58	平成16年 8月	大山ファーム（就労継続B型）
4	J様	女	74	平成29年 7月	アグリッシュ西丘（就労継続B型）
5	K様	女	74	平成27年 6月	細江あすなろ作業所（生活介護）
6	L様	女	52	令和 2年 4月	大山ファーム（就労継続B型）

2. 支援の状況

・今年度も法人品会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行ってきた。グループホームが他人との共同生活の間でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、本人の生活スタイルや自由、要望に応えること、意思決定支援、そのための情報提供を大切に支援を行った。

・日常生活においては、感染予防対策を行いながら、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、草の根作業所、あすなろ作業所、相談支援事業所との連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。土日は、活動先である事業所の行事や地域の行事などにも参加することができた。利用者様から要望を聴き、動物園や紅葉狩りなどの外出にも行くことができた。地域で「自

分らしく、普通の暮らし」ができるようになってきている。買い物や美容院、床屋には、定期的に行くこともできた。

・「事故」については、転倒や小さな傷が見られる場合があったが、大きな怪我には、繋がっていない。第一大山荘・第二大山荘・第三大山荘の利用者の半数が65歳以上と高齢化が進んでいる。引き続き、転倒等の事故の発生予防に努めていきたいと思う。

・感染拡予防については、マスクの着用や手洗い、消毒の指導を繰り返し行った。また、帰ホーム後の手洗いができるように入口に手洗い場を用意した。

・家族（成年後見人等）とは、年2回の個別面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携関係を保ってきた。

3. 支援体制

・管理者、生活支援員、世話人が日常生活支援・介助に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡る支援を行った。また、日中活動先である大山ファーム職員、アグリッシェ西丘職員、あすなろ作業所職員、草の根作業所職員、相談支援事業所相談員、四季の郷看護師・栄養士等とも連携・協力して支援を行った。

・少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図るよう、会議の有効活用や小まめな情報交換・意見交換を心掛けた。

3. 行事

・第一大山荘・第二大山荘・第三大山荘の行事としては、個々人の余暇支援と合わせて、季節を感じることができる外出を行った。また、外部のイベントなどにも積極的に参加することができた。参加する機会は、戻ってきている。

主な行事は以下の通り。

花火、初詣、誕生会、食事会、外出（動物園・紅葉狩り）、ナイトサファリ

4. 健康支援

・毎朝の検温を実施し、日々の体調観察に努めた。定期的に精神科と呼吸器科、循環器科等の通院に加え、年2回の健康診断の結果や日中活動先での歯科検診を踏まえ、要治療の入居者の受診支援を行った。高齢化が進んでいることもあって受診する機会が多くなっている。

5. 防災の取り組み

・火災等災害発生防止に努めるとともに、定期的に火災、地震等の災害を想定した訓練を実施した。

・防災訓練実施状況

4月 29日	消防用設備の設置場所確認及び操作要領
9月 22日	南海トラフ大規模地震に関する警戒宣言が発令されたことを想定しての避難訓練
11月 17日	南海トラフ大規模地震に関する警戒宣言が発令されたことを想定しての避難訓練

※発電機の使用方法については、訓練ごとに実施。

6. 会議・研修

・月1回、もしくは、2ヶ月に1回、利用者の支援に関わる職員会議を行った。

・研修については、職員会議内の時間を使った「感染予防」、「虐待防止」、「事故防止」等をテー

マにした内部研修を実施した。

・外部研修については、感染予防をした上で、少人数の研修に参加をした。

6月 11日	令和6年度 浜松グループホーム連絡協議会 第2回定例会
11月 29日	令和6年度浜松市障がい者孤立支援協議会構成員研修会
12月 10日	令和6年度 浜松グループホーム連絡協議会 第5回定例会
1月 27日	令和6年度 高齢者虐待防止研修会

7. 短期入所

利用の中心は、同法人の日中活動先である事業所に通所している利用者様が主であった。

将来的にグループホームでの生活を視野に入れている利用者様もいて、継続しての利用者様も増えている。

細江あすなろ作業所

1. 利用状況

*利用者の状況 定員 20 名 利用者 22 名（男性 11 名／女性 11 名） R7.3.31

・利用者状況

	在籍者数	一日平均 通所者数	稼働率 %	新規 契約者	退所者	退所理由
4	23	18.27	91.4			
5	23	18.36	91.9			
6	23	18.45	83.9			
7	24	17.69	88.5	1		
8	24	18.3	91.7			
9	24	18.36	96.2			
10	24	18.69	102.4			
11	24	19.00	99.6			
12	24	14.0	73.4			
1	24	13.9	72.9			
2	24	17.05	85.8			
3	24	18.17	90.9			
平均	21.8	17.52	89.05	1		

年齢性別	知的障害が主	
	男性（名）	女性（名）
70代	1	2
60代	3	1
50代	0	2
40代	1	1
30代	3	4
20代	3	1
10代	0	0
計	11	11

※平均年齢 45.3 歳

障害支援区分	人数（名）	利用者本人の住居状況	人数（名）
3	1	自宅	11
4	9	GH 大山荘	4
5	7	四季の郷	4
6	5	他の GH	3
計	22	計	22

※平均区分 5.0

2. 作業状況

開所日数 262 日

- ①下請作業 ・ エステック（自動車部品）
・ 沖通り整備事業

- ②自主製品 ・ 野菜
・ ぼかし

- ・ ビーズアクセサリー
・ 縫製用品

- ③自主製品の販売

- 販売方法 ・ 作業所直売
・ 委託販売（社協・奥浜名湖商工会）
・ 受注（浜松南ライオンズクラブ・障害者週間イベント用）

- ④その他 ・ アルミ缶回収・段ボール回収

3. 活動状況

- (1) 利用者の意思及び人格を尊重

利用者個々にアセスメントを行い、利用者が安全で楽しい日中活動が送れる場の提供に努めた。

- (2) 利用者の自立した日常生活または社会生活を営む能力の向上。

特に、服装に関して季節、清潔に重点をおき、家庭との連絡を密にし、家庭事情で把握が困難な方については、許可を得て日常生活品の購入や作業所内での衣類の管理支援をおこなった。

- (3) 利用者の食事場面を快適な時間となるように支援

- ・ 食事前の手洗いに際し清潔を意識する支援を行った。泡状のポンプを使用し除菌効果が高まるように手洗いの支援を行った。
- ・ 食事の場面では、誤嚥性肺炎防止の為ムース食の方、とろみの飲み物が必要な方が増えた。常に職員が見守り咀嚼、消化能力の向上を意識した声掛けを行った。
- ・ 食後の歯磨き支援は、歯間ブラシ・糸ようじ・タフト等のグッズを使用して出来るかぎりの口腔ケアに努めた。

（令和6年度・浜松市障がい者施設歯科検診事業を実施。歯科医を招いて健診を行った）

- (4) 筋力の衰えを防ぎ、体力の維持を目指す。

- ・ 毎日のラジオ体操、ロコトレ体操を行い、個々のペースにあった歩行を行った。
- ・ 指導者を外部から招き、機能訓練を含めた体操を行った。
- ・ 希望者4名に関しては、有料ではあるが専門家による個別リラクゼーションを行った。

- (5) 生産活動を通じて、社会の一員であるという自覚の持てる支援

- ・ 利用者の高齢化、重度化に伴い下請作業では対応できない部分が増えたので、自立課題を提供し作業に必要な態度、技術、集中力、知識、協調性などの習得を目指した。
- ・ ビーズアクセサリーを女性利用者中心に製作して販売することができた。
- ・ 園芸活動も定着し、生産した野菜を調理師、昼食時に提供したり、家庭に持ち帰り食べていただき、余ったものについては販売した

- (6) 表現活動、行事イベントの体験から個人の生きがい向上に努めた。

- ・ 音楽を利用して表現活動を活発に取り入れた
- ・ 細江あすなろ作業所として、40周年を迎え、みをつくし文化センターホールを借りて日中活動の発表を「あすなろ文化祭」として行った。同時に日中活動で作成した絵画等の作品を展示した。

- (7) 「あすなろまつり」は、文化祭と合わせて、40周年記念事業の位置づけで、記念誌を作成

し、飲食解禁でのイベント開催となった。天候にも恵まれ地域の方も多数来所頂けた

4. 行事

4月	集团健康診断
6月	2町交流ボーリング大会
7月	北地区 ふれあい交流会参加
8月	夏祭り実施 ・アグリッシュ西丘夏祭り参加
10月	作業所連合会主催ふれあい交流レクリエーションへ午後から参加 みをつくし文化センターフェスティバル出演 あすなろ文化祭・あすなろ作品展(40周年記念事業)
11月	あすなろまつり(40周年記念事業)
元気ライブ参加	
12月	伊佐見地区社協まつりに有志利用者参加で和太鼓演奏・フラを披露 クリスマス会(細江地区社協さんの企画に参加) 忘年会
1月	初詣(お参り後は小グループに分かれて行動。昼食もグループ事で楽しむ)
2月	自治会主催の作品展作品出品
3月	ブレ三方原ホーム利用 スタート

その他	毎月1回 ・誕生会 ・音楽療法士による音楽会 ・音楽療法士による音と遊ぶ ・アコーディオン奏者による歌う会 ・講師による軽体操・健康セラピー ・年3回 嘱託医師来所にて健康相談実施
-----	---

5. 職員研修 細江あすなろ作業所 職員研修年間計画 実施報告
年 間：3回 実施 細江あすなろ作業所 年 間：3回以上
事業所内研修

	内 容	時 期・参加者
第一回	■ わ職員研修会 利用者の尊厳 福祉交流センター	6月24日(月) 神谷、金子、五味 浅井、早戸、太田 宮木、中野、野末、 内山、山本、紗希
第二回	■利用者の、私の望む暮らしを考える 事例検討会 エコマップ KJ法の活用について 感染対策・熱中症研修 デジタルコンテンツ活用	8月17日(土) 神谷、金子、五味、宮 木、太田、野末、紗 希、早戸、山本、 浅井
第三回	■障害者虐待防止研修 ハラスメント研修 11/1 ■虐待をしないための環境作り・職員のスキルア ップ 11/9 ■感染症対策・冬場対策研修 ソーニング	11月1日(金) 11月9日(土) 神谷、金子、五味、宮 木、太田、野末、早 戸、五味、山本、浅 井、内山、木田

第四回	■障害特性に応じた理解と支援 強度行動障害 サポーターカレッジ視聴 なぜなるか 行動化 ■事例検討 野末大介さん 伊藤真也さん	1月25日(土) 神谷、金子、五味、宮 木、早戸、野末、紗 希、太田、浅井
-----	--	--

新任職員研修

参 加	内 容	時 期
宮本美可 池本福美 未実施 野末知奈利 鈴木紗季 瀧本江美 平野左由理 鈴木秀幸	福祉サービスの基礎知識を理解する ノーマライゼーションからSDGS コミュニケーション 危機管理・防災・記録・個別支援計画	入職後1か月前後 講師 金子

他部署移動研修(事前)

参 加	内 容	時 期
鈴木理世 講師 金子	福祉サービスの基礎知識を理解する ノーマライゼーションからSDGS コミュニケーション 危機管理・防災・記録・個別支援計画 実際のあすなろの支援について疑問点・今後	12月25日(水)

個別研修 スキルアップできる研修等 資質向上研修(eラーニング サボカレ予定) 個別

参 加	内 容	時 期
神谷京子	管理者研修 生活介護部会 わ、理事会 研修等	適宜参加
金子 勉	売れる売り場づくり 3秒で心をつかむ 生活介護部会 概要・説明	7月29日(月) 9月25日(水)
宮木雄大	普通救命講習1	4月17日(水)
太田靖子	普通救命講習1	10月23日(水)
早戸恵美	普通救命講習1 自立支援協議会 構成員研修 研究部研修会 自閉症	5月17日(金) 11月29日(金) 1月24日(金)
中野昂哉	精神障害を理解するための研修	5月31日
五味光子	普通救命講習1	7月25日(木)
野末知奈利	わ西部地区職員研修会 わ新任研修マナーハラスメン ト 強度行動障害 基礎研修9月26.27 実践11月26.27	5月24日 9月 11月
鈴木紗季	普通救命講習1	6月18日(火)
山本さつき	普通救命講習1	9月27日(金)
浅井光子	普通救命講習1	8月20日(火)

※他 9月2日(月)

- ・防災研修を兼ねて防災訓練実施(在宅保護者の安否コール練習)
- ・DIG 訓練
- ・誤嚥について予防と対処

サービス管理責任者更新研修

参 加	内 容	時 期
神谷 京子	令和 6 年度サービス管理責任者再新研修	

6. その他

12 月～1 月にかけて、インフルエンザ コロナウイルス感染症が拡大、四季の郷、グループホームについては、大事をとって感染症対策としてお休みした。また原因不明の嘔吐下痢も流行したり、コロナ禍後の免疫の低下により、様々な感染症の流行が見られた。

一年かけて、細江あすなろ作業所 従たる事業所計画として、実施ね 3 月に消防の適応審査が何とかおきて、令和 7 4 月 1 日より、三方原(主)細江(従)の 2 拠点の運用していくこととなる。

大山ファーム

1. 利用者状況

(R6.3.31)

月	在籍者 (名)	1日の平均 出勤者数(名)	稼働率 (%)	契約者	終了者	契約終了理由
4	25	23.8	119	0	0	
5	25	23.3	117	0	0	
6	25	23.1	116	0	0	
7	25	22.9	114	0	0	
8	25	19.1	95	0	1	大山→西丘
9	24	21.9	109	0	0	
10	25	22.0	110	1	0	
11	24	22.1	115	0	1	転居
12	24	22.1	110	0	0	
1	24	21.2	106	0	0	
2	24	22.2	111	0	0	
3	24	22.5	113	0	0	

(令和7年3月31日 男性16名/平均年齢32.3歳・女性8名/平均年齢39.3歳)

(1) 利用定員

○就労継続B型支援(20名)

(2) 新規利用者内訳

○地域からの利用…1名

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら利用者の募集を行った。

(3) 退所者内訳…2名

○他県への転居や加齢に伴い、作業量・内容の変更によりアグリッシュ西丘へ異動したケースがあった。

2. 支援の状況

(1) 作業収入割合

●令和6年度総収入 15,978,776円(令和5年度総収入 14,038,721円)

(2) 支払工賃

●工賃総額 7,093,000円(令和5年度工賃総額5,688,700円)

●月一人あたりの平均工賃 就労継続支援B型 26,505円

(令和5年度平均工賃) 就労継続支援B型 21,019円

(3) 支払工賃

平均工賃の向上(平均工賃25,000円以上)を目標に活動を行ってきた。新たな自主製品として黄色玉ねぎの栽培を行った。

(4) 施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(医)西山病院	庭園管理業務	
(有)船越造園	除草作業	不定期
法林寺	除草・清掃作業	月に2回
めせあファーム	玉ねぎの収穫・除草等	
るびなすの畑	野菜の収穫・除草等	

優先調達

除草作業・維持管理作業

重要文化財中村家住宅、新都田サービスセンター
舞坂宿脇本陣等

スペース 24	駐車場管理
興福寺	除草・清掃作業
彩の榊	除草・圃場管理

就労に必要なスキル（挨拶やマナー）を経験・実践する場として施設外作業を位置付け支援を行った。また、グループ単位で作業を進めていくことで連携や協調性を育むことができた。地域とのつながりの中で小学校の除草作業や公共施設の清掃作業など活動の場を広げることができた。

(5) 下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株)TG	自動車部品の組み付け	
(株)第五運送	物品の仕分け	
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	
(有)トークン	箱折	

施設外の作業が難しい利用者や雨天時の活動として下請け作業を提供した。

(6) 自主製品

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
ミニトマト（小売販売） （委託販売）	無人販売所 JAとびあファーマーズマーケット ヴィラ東山苑	ふあ～まるしえ 三方原店・浜北店 高齢者施設
玉ねぎ 染色、縫製（小売販売）	JAとびあ 無人販売所	ふあ～まるしえ
伊佐見花いっぱい運動	伊佐見地域農地・水・環境保全 管理協定運営委員会	

栽培作物（ミニトマト等）

ミニトマトについては10月中旬に定植（品種：千果）をした。主にJAのファーマーズマーケットへ出荷した。収穫量によっては浜松市内にある4つの店舗に出荷することで収益を確保することができた。

篠原町の玉ねぎ農家（めせあファーム）の指導により、自主製品としての黄色玉ねぎ栽培を本格的に実施した。土づくりから定植、収穫、梱包までの玉ねぎ栽培を行いJAに出荷した。

3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断を大山ファームで実施した。

引き続き通所時の検温と体調観察は実施することで感染症の予防・早期発見に努めた。また、マスクに関しては任意とした。しかし、職員・利用者ともに新型コロナウイルスが散発的に発生した。感染経路の特定や接触した利用者の体調観察ご家庭との連絡を密にすることで感染の拡大を防ぐように対応した。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

以下の日程で防災訓練を実施した。

日 時	内 容	参加者
令和6年 6月15日	土砂災害想定訓練	27名
令和6年11月 9日	避難誘導訓練：地震想定	23名
令和7年 2月14日	避難誘導訓練：火災想定	25名
令和7年 3月26日	避難誘導訓練：火災想定	28名

5. 行事

1月4日、「新年会」を実施した。また、大山町の河津桜まつり（2月中旬～2週間）に出店して地域交流を図った。

6. 会議・研修

支援員会議（利用者支援に関わる内容…1回/月）モニタリング会議（個別支援計画に関わる内容…2回/年）を行った。

■内部研修

日 時	研 修 名	参加者
令和6年 9月18日	「特性把握シートの作成について」	大山ファーム 全職員
令和6年12月11日	「虐待防止・権利擁護について」 講師：早戸施設長	大山ファーム 全職員
令和7年 3月31日	「障害者就労の現状と課題」 講師：大山ファーム元利用者中西由暉氏	大山ファーム 全職員

■個別研修

日 時	研 修 名	参加者
令和6年10月 8日	アンガーマネジメント入門講座	安達秀名
令和6年10月12日	静岡県てんかん地域診療連携体制事業 市民講座「てんかんって何」	金子伸子
令和6年11月 8日	「SELPって何」 ～工賃向上は個々の力とチームワーク力～	倉田 覚 岡 拓実
令和7年 1月20日	安全運転管理者講習	安達秀名
令和7年 1月22日	縫製品・雑貨製作事業所部会	那須田敬子

■サービス管理責任者

日 時	研 修 名	参加者
令和6年 10月8日・9日	令和6年度サービス管理責任者基礎研修	山梨芳佳
令和7年 1月23日・24日	令和6年度サービス管理責任者等実践研修	岡 拓実

アグリッシュ西丘

1. 利用者状況

	在籍者数		一日平均 通所者数		稼働率 %		新規 契約者		退所者		退所理由
	B 型	生介	B 型	生介	B 型	生介	B 型	生介	B 型	生介	
4	31	18	24	14	91	114					
5	30	18	24	14	100	120					
6	30	18	23	13	95	111					
7	30	18	23	14	95	114			2	1	B 型へ移行
8	29	17	21	13	90	105	1		1		自己都合
9	28	17	22	13	92	106					
10	27	17	22	13	92	110			1		一般就労
11	27	17	21	13	89	108					
12	27	17	21	12	87	104	1			1	退へ移行
1	27	16	22	12	91	103					
2	28	16	23	12	98	100			1		B 型へ移行
3	28	16	23	13	98	106	1				
平均	29	17	22	14	93	108					

利用定員 就労継続B型支援 (24 名)

【新規利用者内訳】

- ・特別支援学校の就労実習や見学を実施していることから、毎年入所者がある。今年度は1人が入所され、次年度2名入所(内1名は中卒生)が決まっている。
- ・浜松市から提示された定員遵守への対応を行ってきたが、定期的に利用希望者が出ていた。今年度も生活介護利用者とのバランスを見ながら受け入れ調整を行った。
- ・利用者の受け入れ人数は職員数を見ながら慎重に対応した。B 型のみではなく、全体のバランスを見て調整を行った。

利用定員 生活介護 (12 名)

【新規利用者内訳】

- ・特別支援学校から1名が入所された。次年度は1名の入所者が決定している。上記にもある通り定員遵守により今年度も利用者の受け入れ調整に悩んだ。相談員や地域との連携が図れている影響もあって希望利用者は現在もあり、空きを待っていただいている状況。

2. 支援の状況

就労継続支援 B 型

(1) 令和 6 年度作業総収入 12,249,340 円 (前年度 9,793,326 円)

利用者の工賃向上を目指し、単価が高い作業を今年度も探した。単価が高い作業は高度なものが多いが、作業を細分化することでさまざまな障害特性をかかえる利用者でも多数参加することができている。また、協力して一つの物を作り上げることで達成感を得られていると利用者から評価の声をいただいている。作業の搬入量には波があるが、さまざまな企業と委託契約を結び、搬入量の調整を行う事で毎日作業を提供できる体制を整えている。今年度も作業収益を向上させることに成功した。前年度より約 250 万の収入増。今年度末も特別支給金(ボーナス)を支払うことができた。今後は現状維持しつつ、着実に増やしていけるように取り組みたい。

※支払工賃の状況

工賃総額 7,132,100 円 (一人あたりの平均工賃 26,348 円/月) ※前年度 25,483 円

(2) 作業状況

●施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
バセリ農家	バセリ片付け	
浜松市施設	除草作業	
幼保園・中学校	環境整備	
ハンティントンガーデン	シアスタイルの環境整備	
空き家・民家	環境整備・除草作業	
徳増農園	ニラの肥料撒き、定植、草取り	

●下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株) エイテック	自動車部品、家電部品等組み立て	
(有) 藤野工業	自動車部品組み立て	
(株) 天竜電子工業	自動車部品組み立て	
オイウェルズ	文房具等の梱包作業	
宮本農園	ネギの皮むき	
バルモ・彩和	箱作り	

●農作業

事業所での栽培（LED水耕）

LED水耕は、パクチー、ワサビ菜、ルッコラを中心に、他にもバジル、大葉、Gリーフレタス、サニーレタスの栽培を実施。パクチーは辻上商店が全て買い取りとなっており、生産分＝納品により売り上げに反映。栽培した農作物は、以下のような場で販売をしてきた。

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
小売販売	各行事	
委託販売	J Aとびあファーマーズマーケット	三方原店
	ファーマルシェ	
	アグリッシュにて販売	

生活介護

(1) 活動・作業状況

今年度も作業と運動（散歩）を中心に日課を組み立てており、作業については収益が生まれるものを提供した。梱包材の組立や野菜・果物の袋詰め、シール剥がし等を行い毎月支給金（工賃）を通所されている利用者に支払っている。工賃を得ることで社会参加への実感と余暇の充実にも繋がっている。活動は機能訓練やレクリエーションを利用者の障害特性に合わせて組み立てている。項目としては散歩、音楽療法、ボルトナット締め、フェルトボール色分け、パズル、ドライブ、買い物訓練、調理実習などさまざまある。

3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断を大山ファームで実施。

感染症対策として毎日館内の消毒、通所時の検温表（朝食摂取有無）確認と定期的な換気を行った。また、利用者に手洗い・消毒の必要性を伝えと共に継続的に意識できるようにポスターを今年度も掲示している。食事も二部制にして利用者同士の接点を減らすように調整を図った。障害特性によりマスクをつけられない方や外してしまう方がおられるが、継続して声掛けや介助を行った。コロナの発生者数は少なくなったものの、今後も感染症対策はしっかり行い感染防止に努め、利用者の皆様が安心・安全に利用できるように取り組んでいきたい。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間3回の防災訓練を行った。(7月「不審者対応・火災訓練」11月「総合防災訓練」1月「発電機稼働実施訓練」)

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、必要に応じて市や警察へ報告を行い、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

5. 行事実施状況

8月17日(土) アグフェス 2024

1月6日(月) 新年会

6. 研修

(1) 園内研修

今年度から e ラーニングを導入。必須研修テーマである「虐待防止」「感染症」「身体拘束定適正化」の他、自己研鑽として個々で興味のある研修テーマに1つ以上取り組んでもらった。

回	月日	内 容	参加者
1	11月	感染症予防 ～e ラーニング～	管理者・サビ 管・支援員 13 名
2	12/26	障害者虐待防止・権利擁護研修 ～言い換えチェックシートを用いて～	管理者・サビ 管・支援員 13 名
3	1月	障がい者虐待防止「身体拘束」 ～e ラーニング～	管理者・サビ 管・支援員 13 名

(2) 外部研修

回	月日	内 容	参加者
1	12月	サービス管理責任者等実践研修	支援員 1 名

すばる

1. 事業状況

今年度からは市からの委託で、西障がい者相談支援センターに1名が出向している。社会福祉法人ひかりの園、社会福祉法人和光会との共同企業体によって運営され、障がいのあるご本人やそのご家族の相談に応じ、必要な情報提供を行うとともに、関係機関との調整や権利擁護のための支援を行っている。また、地域課題の抽出・解決に向けた取り組み等を行っている。

また、今年度は172件(令和7年3月31日現在契約数、前年170件)の施設や事業所入所・通所利用者、在宅サービスの利用者及び利用希望者の計画相談を行ってきた。特定相談支援事業所の業務としては、障害サービス利用のための計画案の作成とモニタリングの実施、障害サービスの利用調整が業務の主であるが、利用者本人だけではなく、その家族や地域住民からの生活や制度利用に関わる相談支援を、浜松市障がい者基幹相談支援センター、各エリアの障がい者相談支援センター、市内及び湖西市の障害福祉サービス事業所、医療機関、成年後見関連事業所、地域包括支援センター、児童相談所、ハローワーク、社会福祉課等と連携しながら行ってきた。浜松市障がい者自立支援協議会西エリア連絡会や相談支援専門員連絡会の研修会等の企画にも積極的に参加してきた。

利用者本人や家族との面談、サービス事業所等との利用調整等を毎月行ってきた中で、相談支援専門員の説明不足や調整不足に対する苦情が一件あり、振り返りと今後の対応策を講じている。利用者や家族の実情や特性の理解が不十分であったことや相談支援専門員の対応に配慮不足があったことが反省点であることを振り返った。

今年度のサービス等利用計画の作成とモニタリング実施件数は以下の通り。合計568件(前年538件)であった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計 画 作 成	10	11	11	13	10	20	8	10	8	9	9	16	135
モ ニ タ リ ン グ	37	39	27	34	26	41	44	37	35	38	29	46	433

2. 支援体制

今年度より、1名が西障がい者相談支援センターのセンター長として出向し、計画相談としては2名(うち1名四季の郷兼務：常勤換算0.3)で業務に当たった。

3. 研修等

個別ケースによって、事業所内外での会議を実施するとともに、外部研修会等への参加をしてきた。内部研修には、サポーターズカレッジを利用して実施した。

日 付	研 修 内 容	参加者
5月31日	精神障がいを理解するための研修会 (基礎研修)	1名
8月29日	第1回浜松市相談支援専門員等研修会 子どもアセスメントツールの活用について	1名
11月25日	第2回浜松市相談支援専門員等研修会 5ピクチャーズの理解と活用	1名
12月13日	発達障害・知的障害と犯罪行為(ZOOM)	1名

2月14日	第3回浜松市相談支援専門員等研修会 医療的ケアに関する支援体制	1名
-------	------------------------------------	----

4. 実習生の受け入れ

今年度は、昨年度受け入れができなかったことを踏まえ、ソーシャルワーク実習1名の受け入れを行った。希望は多いが、対応できる職員が不足しているため、今後法人としても受け入れについて検討を行っていききたい。

※実習生受け入れ実績

所属等	目 的	実 習 期 間	実習日数	受入人数
静岡県立大学 短期大学部	ソーシャルワーク実習	3月10日～3月15日	6日間	1名

事業報告の附属明細書

令和 6 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人 昂会